

## 元副会長 田中幸吉先生を偲ぶ

田中幸吉先生は、30有余年にわたり通信工学・情報工学の教育と研究の発展に情熱を傾けてこられました。「死ぬまで走り続けたい」との日頃のお言葉に符合するかのごとく、それにしてはあまりにも突然に、昭和58年7月25日逝去されました。享年63歳でした。

先生は、昭和19年9月東京帝国大学第2工学部電気工学科卒業され、直ちに東京芝浦電気株式会社に入社、その後海軍技術研究所嘱託兼務などを経て、昭和26年4月神戸大学工学部に赴任され、教育研究活動に入られました。神戸大学工学部電気工学科の助教授、教授を歴任後、昭和39年7月大阪大学基礎工学部教授に転ぜられ、同学部電気工学科を経て、昭和45年4月同学部に新設された情報工学科に移られ、情報工学基礎論講座を担当されました。昭和58年4月停年により退官、大阪大学名誉教授の称号を授与されると共に、富士通株式会社国際情報社会科学研究所長となり、逝去されるまで務められました。

先生は多年にわたる神戸大学並びに大阪大学在職期間を通じて、ご専門である通信理論と情報工学の分野で数々の業績を挙げられるとともに、誠意と積極的実行力ある指導により学界及び産業界に多数の人材を送り出されました。先生のご研究は、神戸大学時代のフェージング通信路の研究から情報工学、特に近年頻に台頭してきた知識工学に至る広い範囲にわたっており、自己學習過程の通信系への応用、ファジイ論理とその応用、レーザ光学系を用いた文字認識、パターン認識と學習理論、医用画像情報処理などの分野で独創的な研究をされ、数多くの業績を残しておられます。また人工知能と知識工学の将来性にいち早く着目され、この分野の発展に指導的役割を演じられました。特にこの分野では先生が代表者として組織され文

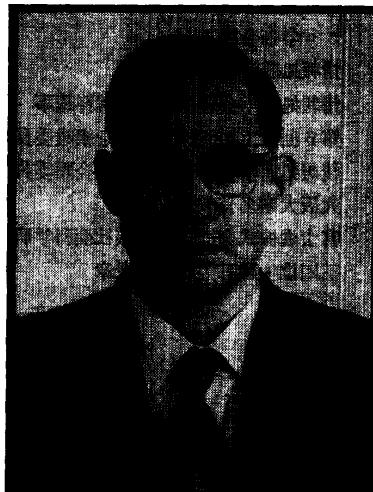
部省科学研究費総合研究(A)「知識工学の基礎とその応用」は多大の関心を集め、その成果の一部は単行本「知識工学」として近く刊行されます。また、これに先立ち「第6回人工知能国際会議」の組織委員長として活躍され、同会議を昭和54年8月に東京で開催することにより、わが国における人工知能と知識工学の発展に尽されたご功績を忘ることはありません。さらに日米科学協力研究、日米科学協力セミナー、国際共同研究を日本側代表として組織し、海外との協力研究に尽力されました。また先生は、文部省大学局工学視学委員、学術審議会専門委員、日本学術會議の情報工学研究連絡会委員、同電波科学研究連絡委員会委員、理工系情報学科協議会会长なども歴任されました。なお、情報処理技術の研究開発と情報化促進に多大の貢献されたことに対し、昭和56年通商産業大臣より個人表彰を受けられました。

以上のごとく先生は情報工学の教育と研究の分野で指導的役割を果し、多大の貢献をされました。

本学会に関しましては、昭和50・51年度関西支部長、昭和52年度理事・会誌編集副委員長、昭和53年度常務理事・会誌編集委員長、昭和55・56年度副会長を務められました。とくに副会長のときは長期企画委員会(Future Policy Committee; FPC)委員長として25周年を迎えるとする本学会の基礎固めに尽力されました。

晩年の病を押しての国際会議出席など先生の強烈な意志と行動力を忘ることはできません。最後に謹んで哀悼の意を捧げ、先生のご冥福を衷心よりお祈り申し上げます。

(大阪大学基礎工学部情報工学科 萩 忠雄)



## 御 略 歴

大正 8 年 10 月 28 日 姫路に生れる  
 昭和 19 年 9 月 東京帝国大学第 2 工学部電気工学科卒業  
 10 月 東京芝浦電気株式会社・通信機製造所入社  
 24 年 3 月 姫路工業大学助教授  
 26 年 4 月 神戸大学工学部電気工学科に講師として赴任  
 28 年 11 月 神戸大学工学部助教授  
 36 年 4 月 神戸大学工学部教授  
 39 年 7 月 大阪大学基礎工学部教授  
 45 年 4 月 大阪大学基礎工学部情報工学科新設に参画  
 理工系情報学科協議会第 2 代会長（昭和 51 年度～52 年度）  
 ○工学博士  
 ○文部省工学視学委員  
 ○通産大臣賞  
 ○学術会議  
 50 年度～51 年度 情報処理学会関西支部長  
 52 年度～53 年度 情報処理学会理事および常務理事  
 54 年 8 月 第 6 回人工知能国際会議を組織委員長として東京開催  
 55 年度～56 年度 情報処理学会副会長・長期企画委員長  
 58 年 4 月 大阪大学名誉教授  
 富士通株式会社国際情報社会科学研究所長  
 58 年 7 月 正四位・勲三等旭日中綬章